

# コミュニティ だより

徳島市  
徳島市コミュニティ協議会  
徳島市幸町2丁目5番地  
〒770-8571  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511

## 2013年を迎えて

徳島市長 原 秀樹



明けまして  
おめでとうご  
ざいます。

輝かしい新  
春を穏やかに  
お迎えのこと  
と謹んでお慶  
び申しあげま  
す。

皆さま方には、日頃より、コミュニティ活動に深いご理解と多大なるご尽力をいただき、厚くお礼を申しあげます。昨今、急激に進行する少子高齢化や人口減少、先行き不透明な経済情勢など、重要課題が山積する中で、とりわけ、近い将来発生が予測されてい

る巨大地震やそれに伴う津波への対策は、喫緊の課題でございます。本市では、市民の皆さまの安心・安全を確保する「備え」を早期に確かなものとするため、可能な限りの防災対策に力を注いでおりますが、行政の取り組みをもってしても、やはり、いざという時に最大の力を發揮するのは、お互いを信じ、助け合うことのできるコミュニティの存在であると確信しております。

日頃より地域で育まれた人と人とのつながりや絆は、こうした防災面も含め日々の暮らしの中で、そこに住む誰もの大きな支えとして、計り知れない安心と安全に繋がるものであり、そうした地域社会づくりに積極的なご支援をい

ただいております皆さまのご活躍を、非常に心強く感じている次第でございます。本市におきましても、「まちの主役」である市民の皆さまのご活動を支えるため、市民活動の拡大と活性化を図る「協働によるまちづくり」を積極的に推進するなど、様々な施策展開により、将来像である「心おどる水都・とくし

ま」の実現に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、力強いご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、この一年が皆さまにとりまして実り多い幸せな年となりますよう心からお祈り申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 新年のあいさつ

徳島市コミュニティ連絡協議会

会長 島田 和男



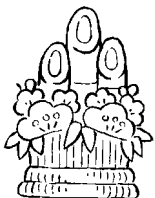
不安が発生し、ユーロ圏諸国、特にギリシャとスペインでは失業者が十一%を越え、若者ではなんと五割を越える状況となりました。

日本も影響を受け、相対的に国内が安定しているという理由で異常な円高となり、日本の産業は大きな痛手を受けています。しかも九月には最大の貿易相手国である中国と尖閣諸島問題が発生し、貿易はおろかいろいろな分野にまで支障をきたし、一昨年の東日本大震災と合わせ国難とも

いうべき状況であります。国内においては、三年前に華々しく登場した民主党政権が、分解状態となり国民の期待を大きく裏切っています。このような状況下において徳島市は行財政改革が進行し、健全化の方向にあります。しかし、財政収入は年々減少傾向にあり、合理化をいっそう進めなければならないと言われております。

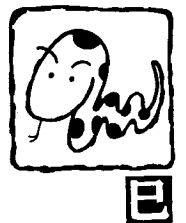
このような逆境のなか徳島市内の各コミュニティ協議会もコミセン利用料金の減少などで運営が厳しくなっております。しかし、徳島市は他府県に比べコミュニティセンターが各地区に建設され整備されています。

私たちは、できるだけこのすばらしい施設を利用しお互いにアイデアを出し合い、情報交換をし、自主運営ができるよう今一歩前進しようではありませんか。本年はみんなで力を合わせ絆を強くして、良い年にいたしましょう。



年男年女

所感と抱負



津田コミュニティ協議会

会長 島田 和男

明けましておめでとうござい  
ます。巳年の新春を健やかに  
迎えなされた皆さまに御祝  
いを申しあげます。

巳年生まれの人に「所感と抱負」  
という原稿依頼が送られてきたの  
で簡単に書かせていただきます。

走り続けてはやうん十二歳。残  
りが少なくなりました。

津田生まれの津田育ち。先祖も  
江戸時代より津田。

ただ学校を出てから十年間ほ  
ど津田を離れサラリーマン生活。  
末っ子なのでこのまま会社務めと  
思っていたらなぜか…津田にもど  
るはめに。これも私の運命か…?

三十歳のとき、幼稚園PTA  
会長に推薦されましたが、家は商  
売、私はまだサラリーマンをしてい  
たので再々固辞しましたが、園長と  
会長に説得され引き受けました。

これがボランティアのはじまり。  
以後四十数年、団体は変わったが  
続けています。

いつもこれで良いのか、役目を果た

しているのか、反省しながらの毎日。

歳はとったが気持ちちは若くもち、  
健康に気をつけ、いつも前向きで  
「コミュニティ」のため、我々自身のた  
めにこれからも頑張っていこうと  
思っています。

八万コミュニティ推進協議会

会長 福田 紀雄

謹んで新年のお慶びを申しあ  
げます。皆さま方も健やかな新  
しい年をお迎えのこととお祝い申  
しあげます。

私は五回目の巳年に現役を引  
退し、先輩の進めで八万地域のボ  
ランティア活動の仲間入りをいた  
しました。

八万地区の各種団体先輩の皆  
さま方のご指導、また助言を得て、  
八万コミセンの運営に頑張ってい  
ます。

八万地区はコミセンが二カ所  
ある為に、活動を合同で助け合っ  
て全体の交流を行います。成人  
式、敬老会、文化祭等は八万コミ  
センに於いて行います。普段は、地  
区の方々の運動また健康維持に

体育館が活用されております。

そのために多数の人々が入り  
するので、玄関のタイルが雨天時  
によく滑り、転倒事故が発生し  
ておりました。私たちは安全で安  
心して利用してもらうため、徳  
島市市民協働課にお願いしてお  
りました。昨年、念願叶い、張り  
替えてくださり本当にありがと  
うございました。利用者にも大変  
喜んでいただいております。

安全で安心して利用できる施  
設の維持に努力致したいといつも  
考えております。

私の一日の始まりは、児童の立  
哨から始まり、地域の安全と安  
心のためにまた八万コミセンは子ど  
も見守りカメラの本体があります  
ので、八万地域の安全の意識が強  
いと感ずる毎日です。

今度六度目の巳年を迎え、少  
しスローライフで頑張りたいと思  
う年になりました。

地域の皆さま方の健康づくり  
と、コミュニティの活動の場として、  
多くの皆さまが楽しめる場とし  
て今後とも頑張り努力致したい  
と思っております。

本年もよろしく  
お願いいたします

沖洲コミュニティ協議会

会長 三栖谷高照

津田コミュニティ協議会

会長 島田 和男

加茂名まちづくり協議会

会長 原田 治郎

加茂コミュニティ協議会

会長 大栗 敏治

八万町各種団体連絡協議会

会長 松尾 孜

八万中央コミュニティ推進協議会

会長 露口 玲子

八万コミュニティ推進協議会

会長 福田 紀雄

勝占地区コミュニティ連合会

会長 山口 敏

勝占中部コミュニティ協議会

会長 尾上 義一

勝占東部コミュニティ協議会

会長 高島 伸一

多家良地区連合協議会

会長 下條 敏也

多家良中央コミュニティ協議会

会長 芝原 孝昌

丈六コミュニティ協議会

会長 山橋 正和

不動コミュニティ協議会

会長 渡邊 浩一

入田町まちづくり協議会

会長 坂東 喜夫

上八万コミュニティ連合協議会

会長 河上 治義

上八万まちづくり協議会

会長 富永 仁一

一宮下町づくり推進協議会

会長 祖川 信明

川内まちづくり協議会

会長 増金 賢治

川内南コミュニティ協議会

会長 井上兵八郎

応神町コミュニティ協議会

会長 玉置 勇次

国府コミュニティ協議会

会長 幸田 勝

新町コミュニティ協議会

会長 沖野 高穂

西富田コミュニティ協議会

会長 小出 雅彦

東富田コミュニティ協議会

会長 松ノ内 清

昭和コミュニティ協議会

会長 松岡 勤

渭東コミュニティ協議会

会長 湯浅 義博

住吉・城東地区町づくり協議会

会長 芝 正裕

渭北街づくり協議会

会長 岩丸 定

佐古コミュニティ協議会

会長 三木 隆清

南井上コミュニティ協議会

会長 松島 孝昌

北井上地区コミュニティ協議会

会長 前川 俊治

内町まちづくり協議会

会長 豊田 雅信

(順不同)

# 時代の変化に伴う コミュニティ協議会の役割

## 東富田コミュニティ協議会

東富田地区、大麻比古神社（明神さん）の秋祭りは毎年十月二十一日、二十二日の二日間実施しています。二十一日の宵宮には勇み屋台を出します。

勇み屋台は古くから東富田に伝わる伝統行事の一つです。一時中止をしていましたが、街に活気を取り戻したい、子どもの育成にも力を注ぎたいとの願いから、十年前に復活



しました。一時中止した行事を復活するには相当のエネルギーがいりましたが、当協議会が中心となって、古くから伝わる大切なものを基本として遺し、運営方法は、今日の時代にあった方法で復活することにしました。地域の皆さまも、この勇み屋台が復活できたことを大変喜んでくれています。

昔は、祭り行事など地域行事はその季節が来ると、そこに住む人々の手によって自然体でできていました。近年は、少子化、高齢化、若者の地域離れなどが進み、このような伝統行事が次第に失われつつあります。

この勇み屋台も、実施方法において昔と大きく変わってきています。乗り子の太鼓打ち練習でも、昔は関係者の各家庭で交代で受け持ちお世話をしていたですが、今日ではコミュニティセンターに集まり、事前の十日間練習をし、

当日に備えるといった方法になっていきました。指導は昔通り、乗り子として、また、担ぎ手として実際に体験した地域の有志が担当してくださり、昔のままの形を引き継ぐことができます。

が、乗り子、担ぎ手（現在は、車になっているので車の引き手）は、小・中学校を

通じて募集してもらわなければならなくなっています。このように、祭り行事一つをとっても、時代とともにその方法は大きく変わってきました。当協議会には、今後、街づ



くりを進めていくにあたって、その内容や方法を常に時代の流れに則したものにすべく、時代を先取りした創造や工夫が求められていることを強く感じているところではあります。



# 音楽で繋がる笑顔

勝占中部コミュニティ協議会  
藤井 悦子・寺西 員代



勝占中部コミセンで活動している大正琴グループ「和」「せせらぎ会」と、童謡を歌う会「かじか」のご紹介をさせていただきます。どのグループも音楽を楽しみながら仲間とのふれあいを大切に日々の生活に何か潤いを持たそうと始められました。

まず、大正琴愛好会「和」は、平和の和、調和の和、会員が和やかで和気あいあいになるようにと名付けられました。童謡、懐メロ、ヒットナンバー等、月に二回コミセンで練習に励んでいます。もう一つの大正琴グループ「せせらぎ会」は約二十年前、さらさら流れるような音色で大正琴を楽しめたらと名付けられました。両グループとも、今は毎年春にある音楽会に向けそれぞれ取り組んでいて、「タッチ」「雪の渡り鳥」「南の花嫁さん」等練習中です。「かじか」

との競演も楽しみです。童謡を楽しむ会「かじか」も原点は人と人との繋がりで、ボランティアグループとして集まった仲間が童謡を楽しむようになり、そこへいろいろな人が「かじか」の暖かさ、楽しさに惹かれ加わったということです。



練習は月一回、和気あいあいのお喋りから始まり、少女のようなかわいい声で懐かしい童謡や名曲を唄っています。終始絶えない笑い声の中で過ごす二時間は、元気のシャワーをあびているようです。

人生にはいろいろな大変なことも多いものですが、みんなで音楽に取り組んでいると、何もかも忘れて楽しい世界に連れていかれてしまいます。

できない、難しいと言いつながら、いつしか美しいハーモニーが奏でられたときには、本当に最高の気分を味わうことができます。またときには、人生経験豊富な会員の話に花が咲き、笑いとともにこれもまた命の洗濯です。

そして「和」「せせらぎ会」「かじか」ともどもボランティア

ティアで老健施設や地区の敬老会等で演奏を披露させていただいています。このときの目標もまず自分たちが楽しむこと。そして聞いてくださる方の笑顔をいただいたときには飛び上がるほどうれしくなります。皆さんと笑顔を共有する。そんな力が音楽にはあるような気がします。楽しいと感じる時を大切に、これからも活動を続けていきたいと思えます。

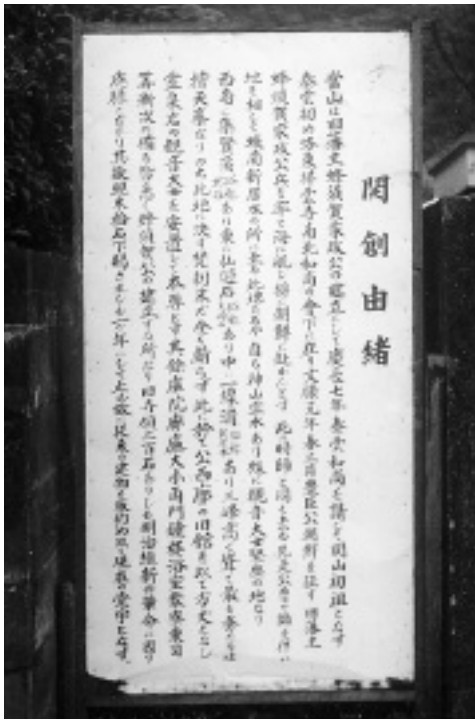
# だいあんじ 大安寺どついで

佐古コミュニティ協議会

郷土史研究者 三浦 圭介

住所 徳島市南佐古六番町四  
 宗派 臨済宗妙心寺派  
 住職 山口 宗順氏

大安寺は蜂須賀家政公の顧問僧で禅僧泰雲禅師が一六〇二（慶長七）年（約四百年前）に創建した寺で寺領二百石が与えられ格式が高く特別の待遇を受けた俗に言う大寺と呼ばれた名刹で蜂須賀家一門の菩提寺（除く藩主、正室側室、子孫）として興源寺に次ぐ名刹であった。



大安寺門前にて



大安寺

裏山には一門の立派な墓が多数ある。例えば蜂須賀家第十代藩主重喜公次男喜翰（公族若狭）六十一歳没、勝応院や十男で喜端（中老出羽）四十九歳没彦徳院等の墓がある。藩政時代南佐古五、六番町一帯の山麓が大安寺の境内で、乗馬で訪れた武士でもここで下馬して徒歩で墓前に参拝した。境内東隅に菩薩泉という泉がある。横一、四メートル、

を讃えた石碑が建てられている。高さ二、四メートル。果実の桃型（写真参照）で一六六三（寛文三）年癸卯季（約三百五十年前）鉄崖禅師（三代目住職）と雪潭禅師が建立した。漢文で記載



菩薩泉石碑



縦二メートル、深さ二、四メートル。二個とも同型である。この菩薩泉は藩主のお茶の水として使用され、後年は酒や豆腐の製造に使用され現在も大安寺と近隣で飲料水と雑用水として使用されている。

またこの泉南隣にこの名泉が建てられている。高さ二、四メートル。果実の桃型（写真参照）で一六六三（寛文三）年癸卯季（約三百五十年前）鉄崖禅師（三代目住職）と雪潭禅師が建立した。漢文で記載されている。この泉の水は冬は暖かく、夏は涼しくその味清甘その色蜜潔で、お茶の水に適しているという。お茶やお酒かわからないがいずれにしても香泉であり菩薩の化現であり、このため菩薩泉と名付けた。いずれにしても私はこのことを喜び多くの人にこの旨を伝えたいとの意味が記されている。

# 「にゆうた連」復活

入田町まちづくり協議会

会長 坂東 喜夫

平成二十四年四月、桜花爛漫のころ、入田町まちづくり協議会有志により、わが町における阿波踊り復活の話が持ち上がりました。同志相集い検討を重ねた結果、八月十九日開催の入田町コミセン夏祭りに復活デビューすることとなりました。

全町民に参加を募集し、四月十七日に実行委員会を立ち



上げ、毎週水・日曜日の午後七時より二時間半ほどの予定で練習を開始することを申し合わせました。町内の踊りや鳴り物の経験者を募るとともに、三十代から八十代の広範囲な年齢層からチームを結成し、踊りを楽しむことを第一に練習を始めることとしました。

入田町では昭和五十五年頃まで、青年会を中心に「しらすぎ連・わらわ連」が活動していました。後継者不足により休止を余儀なくされておりました。このため、参加者の多くは未経験者でありましたが、経験者の懇切丁寧な指導と参加者の情熱により修得に励み、デビューの日を迎えることになりました。

入田町コミセン祭りは、文化展も併せて開催し、入田幼稚園の歌と踊り、テープカット、子ども遊びと続き、

芸能発表では、大正琴・詩吟・民謡・太極拳・伝統の締太鼓の演奏があり、フィナーレとしてにゆうた連による阿波踊りが行われました。来場の皆さまとともに和気あいあいのうちに乱舞で夏祭りを閉じることができました。

今後は敬老会等の行事にも積極的に参加し、老若を問わず、入田町民の心の触れ合いを大切に、古き伝統を連綿と後世に伝えていきたいと念じております。



## 徳島市コミュニティ

### まじりに参加して

親子で楽しむリズムワーク

南井上コミュニティ協議会  
リトピュアリトミック認定講師

川人 あゆみ

ゼロ歳児からのリトミック「リトピュアリトミック」の認定教室を、三年前徳島の東みよし町で初めて開設しました。そしてリトピュアリトミックの楽しさを徳島市内の親子の

皆さんにも知ってもらえたらと、五月より南井上コミュニティセンターで「リトピュアリトミック国府教室」をスタートさせてもらいました。月二回、第二・四月曜日、生

後二カ月からの子のベビークラス、二歳からのリトルクラスのレッスンです。

リトピュアリトミックは、四十分間音楽を流してカリキュラムを進めていきます。

絶対音感・絶対拍・絶対感性という三つの絶対という柱があります。

絶対音感とは、ドはドと判別できる力です。ゼロ歳児から「聴こうとする耳を育てる」ことがとても大切です。聴こうとする耳が育つと絶対音感を身につけること、人の話が聞けるようになります。

絶対拍。リズム感を身につけることも大切です。リズム感には音楽だけでなく運動面、学習面、どのような場面でも必要とされています。

絶対感性。人には感性というものがありません。子どもたちも元気な子、おとなしい子、さまざまです。まずはみんな違うということを認め、その上でその子が持っている素晴らしいものを見逃さないでほめて伸ばしていきたいと思えます。音楽だけではなく、学校生活や社会生活の中で大切な心を育ててくれるリトミックだと私は思っています。



先日徳島市コミュニティまつりに参加させていただきました。普段とは違う会場でも子どもたちは大丈夫だろうかと私もママたちも心配していましたが、本番はいつも以上に楽しくのびのびと表現できていました。聞いてくださった方々の拍手や「上手にできたね」という温かい言葉に子どもたちは大満足の表情でした。これからも子どもたちの成長を共に感じさせてもらえることを楽しみにレッスンしていきたいです。今回声をかけてくださったこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。



とくしまマラソン

# 今年も、実り多き一年を目指して



渭東コミュニティ協議会  
岩田 妙子

桜咲く四月。  
東環状線整備計画の要とな



福祉夏祭り

梅雨明けの七月。  
阿波踊り有名連、ゑびす連

「阿波しらさぎ大橋」が完成したことを記念し、渭東地区の福島をスタート地点とした「とくしまマラソン」が開催される。  
当日は、悪天候で、一時は開催も危ぶまれたが、無事スタートし、コミセンでも役員等関係者が、早朝よりボランティアとして参加。「皆さんに少しでも気持ちよく走っていただけたら」との思いを込め、警備、コース誘導などを行う。二十五年度のスタートも渭東地区と決定しており、協力できることをうれしく思う。

「防災の日」をふまえ、避難訓練を行う。ここ、渭東コミセンは、一階に保育所、二階は公民館とコミセン、三階が児童館という全国でも珍しい複合施設。今回は、津波災害を想定し、一階の保育所の園児を、コミセン、公民館利用者が三階



避難訓練

残暑の九月。  
阿波踊りを堪能。

皆さんを迎えての福祉夏祭り。毎年、恒例となったこの祭りには、地元幼稚園も協力。地域間、世代間交流となり大いに楽しむ。最後は全員参加で阿波踊りを堪能。



LEDイルミネーション

まで避難させる。各階で個別に訓練を行うのではなく、合同で開催することの重要性を感じた訓練となった。  
木枯らしの十二月。  
昨年引き続き、LEDイルミネーションを点灯。コミセン北側を彩るこの灯りは、東日本大震災の一日も早い復興を願って「希望」と名付けられている。  
この他にも、敬老会や成人式など年間を通じて様々な事業や活動を地域団体と協力して実施している。本年も昨年同様、地域のために実りある一年を目指している。

シリーズ  
名所・旧跡

# 震災教訓をしるす百度石

## 沖洲蛭子神社

沖洲コミュニティ協議会

東日本大震災を受けて、南海トラフの巨大地震の被害想定が次々と示されている。

このような中、過去の災害教訓を書き記した百度石が沖洲の蛭子神社の境内に残されているので紹介したい。

百度石は、礼拝・祈願のために百度もうですときの標識になる石であるが、そこに後世へのメッセージとして残したことに先人の強い思いを感じずにはいられない。

この百度石は、一八六一(文久元)年に建立されたとされており、風化が進んでいるためほとんどが見えなくなっているが、裏面の一面だけが、かろうじて残っている。

文面には一八五四(安政元)

年の安政南海地震のときの様子が記されている。

安政元年といえ、江戸時代末期でペリーが来航して、日米和親条約が結ばれた年である。

地元の人が書き残したとされる文面によると、左面には「嘉永七年寅年十一月五日、大に地震ふ。人々うろたへ木竹の根からみし中へかけ込み、津波来ると騒ぐ声におどろき、舟に乘しはおし流され、危うきを助かり、又舟覆りて命を失うも有り」

中央面から右面にかけては「必ずふねには乗るべからず。家潰え、炬燵竈より火起こり家蔵多くやけぬ。かかる折はこころを沈め、火の元に心つ

ける事肝要なり。百年経ぬる程には、かやうの震濤有り」と聞く。故にこた

び氏神の右前にも(百)度石を建て序でにこのよし誌侍りぬ」

現代語に近いので、意味は理解できると思うが、今後百年ほど過ぎた頃、また地震があると指摘しており、現に九十年後の昭和二十一年には、昭和南海地震が発生している。現在、地震や津波の予知機能や避難のありかたなどの考察が進められているが、蛭子神社の百度石を前にすると、先人が残してくれた教訓を生かし、自分はもちろん家族や地域の人々が一人でも多く助



かるよう、日頃から考えておかねばならないと感じずにはいられない。

### 編集後記

新年おめでとうございます。新しい年の希望と豊かな市民活動の展開を祈念します。

かつて蜂須賀家政は中世に築かれた一宮に入り、新しく築城しようとしています。しかし豊臣秀吉は海の近くに築城を命じます。家政は城山に築城し、城下町の建設を進めます。近世を開く慧眼をもって徳島を開き発展させていったのです。

近代の日本の薬学界を開いていった永井長義も、長崎留学、時代の先頭を行くベルリン大学に留学し日本の薬学界を開いていきます。

新しい時代を開く人づくり、町づくりが期待されます。歴史や伝統を受け継ぎ発展させる営みも大切です。東富田の勇み屋台の復活と町づくり、入田の「にゅうた連」の再生、勝占中部の音楽活動の創設、涓東の福祉夏祭り、南井上のリトピュアリティミックの創設、時代を開く各地区の意気込みが感じられます。大安寺の歴史や沖洲蛭子神社百度石の紹介は目を見張られます。

(佐藤義忠 記)

